

本当は2800~4200回か 西之表市に影響大の飛行ルートが示されていない?!

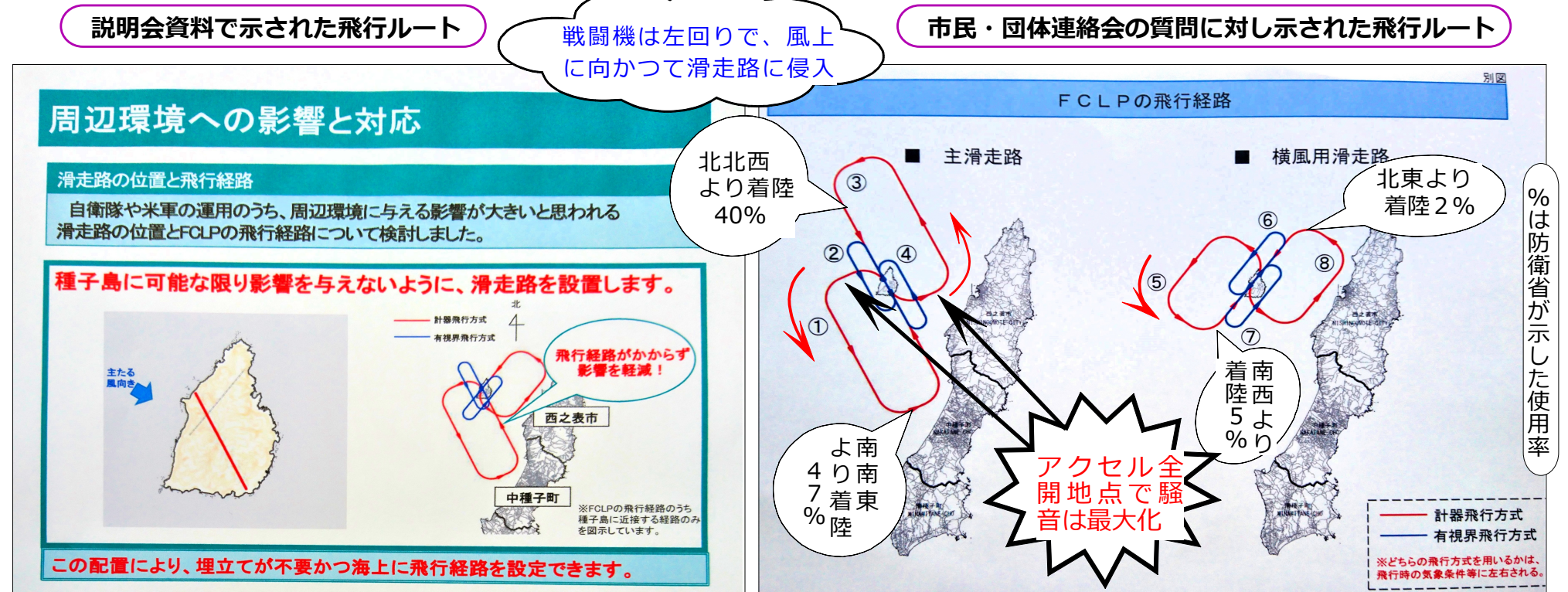
年度	硫黄島		厚木飛行場	
	日数	回数	日数	回数
2009	12	5140		
2010	8	3210		
2011	9	2780		
2012	9	2780	3	782
2013	16	4060		
2014	11	3450		
2015	9	3020		
2016	21	4870		
2017	11	3100	4	754
2018	18	4170		
2019	9	2100		

(米空 艦載機着陸訓練(FCLP)東京都都市整備局より)

防衛省は、米軍FCLPは1回10日間、1日200~300回、10日間で2000~3000回と説明していますが、東京都の資料によると、過去3年間の平均は14日間、5年間平均は14.4日間になります。

防衛省説明の1日200~300回で計算すると、14日間では2800回~4200回にもなります。

馬毛島で実際に漁をしている組合員の反対を押し切ってボーリング調査を始めました。馬毛島基地建设費は1兆円を超すという専門家もいます。コロナが拡大し、医療崩壊が始まっています。こういう時世で新たな軍事基地を認めるのか、私たちにも問われています。



連続離発着訓練(タッチ・アンド・ゴー)は、通常左回りで実施
戦闘機は風下から風上に向かって滑走路に侵入する、風向きで侵入方向が変わる
速度を時速200km程度に落として着陸
その直後にアクセルを全開にして離陸をするため、離陸直後に爆音は最大に
西之表市への影響が大きいのは説明会資料にはない③、④の飛行ルートの可能性あり
防衛省は訓練空域はないと断言、2008年当時の説明と矛盾
防衛省は、飛行ルート上を同時に複数機で実施すると明言
狭い飛行ルート上を同時に平均速度450kmで複数の戦闘機で
離着陸訓練をするのは極めて困難で危険
戦闘機は絶対種子島を飛ばないと説明に大きな疑問
宮古島では住民説明会では否定したミサイルを配備し弾薬庫を設置、防衛大臣が謝罪

種子島を飛ばない、影響が限られているを信じられますか?

基地雇用はどういうものがあるのか・・・宿舎借り上げ、定期船委託、給食委託を検討します (11/19)

交付金は決まっているか・・・交付金額は決まっていない。個人には交付されない (11/19)

税金は安くなるのか・・・税金が安くなるということではない (12/6)

常駐する自衛隊員は・・・150～200人宿舎はどこに造るか、借り上げるのかも決まっていない (11/19)

米軍は種子島に来ないのか・・・訓練では来ないが、緊急的な要素で来島することは否定できない (12/1)

米軍は本当に種子島を飛ばないのか・・・
訓練で飛ぶことはありません (12/5)

もしも米軍が種子島上空を飛んだ場合止めることはできるのか・・・米軍に申し入れます。強制的に止めることはできません (12/1)

基地建設は決まっているのか・・・造ることは決まっていない (12/6)

馬毛島は 日・米の空母艦載機の連続離発着訓練場になり、戦闘機やオスプレイなどを使った実戦的な軍事訓練基地になります。戦争が起きたときは後方支援基地に利用されますので、相手国の攻撃対象になります。来年の市長・市議会議員選挙は基地建設の行方を左右する極めて重要な選挙になります。

説明会質問していろんなことがわかりました

連続離発着訓練 米軍 深夜3時 自衛隊 夜10時前まで



住民への説明会で、大きな騒音が発生する戦闘機の連続離発着訓練（タッチ・アンドゴー）は、**馬毛島でも**、米軍FCLPで深夜3時まで、自衛隊では夜の10時前まで実施する場合があると、はっきり防衛省が答えました。河野太郎前防衛大臣のホームページ『ごまめの歯ぎしり』2001年3月6日付によると、FCLPは、昼間8回、夜6回のタッチ・アンドゴーをひとつのサイクルとして、最大3サイクル3日間の訓練をすることになっているそうです。すぐそばに種子島がある馬毛島でも、深夜に及ぶ訓練が行われる理由は灯りのない真っ暗な状態での訓練が義務付けられていることにあるようです。



米軍20日 自衛隊130日 合計年間150日



訓練日数は、米軍FCLPで年間20日、自衛隊で130日、合計で年間150日程度になることも、市長や知事に説明されています。おおむね、2日に1日のペースで、一年中連続離発着訓練が行われることになります。そのほかの訓練もありますので、種子島は”騒音の島”となってしまいます。



米軍FCLPは 1日200～300回 10日間で2000～3000回も

なかでも、深夜3時まで行くとされる米軍の連続離発着訓練は、1日200～300回、10日間で2000～3000回も実施予定と説明しています。

人の住むところではできない訓練が 1年中実施される島に

現在、**深夜の連続離発着訓練**が行われているところは**250km圏内に**

人が住んでいない硫黄島しかありません。

その硫黄島の訓練が、永久に、種子島からわずか10kmの馬毛島に移されようとしているのです。



馬毛島で、深夜まで戦闘機が飛んだら、健康な人も眠れません。病気の人や、幼い子ども、高齢者はどうなるでしょうか？酪農、畜産、養鶏は変わらずできるでしょうか？観光客は減らないでしょうか？移住者は島を出ていかないでしょうか？

八板市長と一緒に、将来にわたって、子どもたちが安心して生活できる島子どもたちが帰ってきたいと思える島を築きましょう。

今を、生きる者の責任を果たしましょう。
みんなが反対すれば、基地計画は撤回できます。

